

溪声

かんきょう高原いんふお

神岡・上宝共通版

H24.1.3発行

Vol.41

発行/株式会社 神岡衛生社



今年もよろしく願い申し上げます



株式会社 神岡衛生社
代表取締役社長 南 伸一

2012

迎撃

感謝

皆さま方には、お健やかに平成二十四年の初春をお迎えのことと存じます。

昨年も皆さま方のご支援をいただき、一年の業務を無事に終えることが出来ましたこと、心より厚く感謝申し上げます。

今年ほど複雑な気持ちで新年を迎えることは、かつてなかったのではないかと感じます。昨年三月十一日の東日本大震災で見た自然の脅威を、未だに整理しきれないところがございます。

今でも、震災当日の津波に呑まれる家々の映像が鮮明に浮かんでまいります。私たちが作り上げてきた物は、自然の中では通用しないことを見せつけられたように感じました。

世界最深とも言われた釜石湾の防波堤は、想定を超えた津波に破壊され、今後新たな想定で更に高い堤防が造られます。

神様はこうした私たちの行動を、どのように見ておら

れるでしょうか？いつまで自然と戦い続けるつもり？と問いかけておられるのではないのでしょうか。

仏教の言葉で、代受苦者だいじやくしゃというものがあり、これは本来私たちが受けなくてはならない痛みや苦しみを代わりに受けている人を指すそうです。

東北で被害に遭われた方々の苦しみは他人事ではなく、自分自身がこれから自然とどのように向き合っていくかをしっかりと考えて行かなくてはならないと思います。

この「かんきょう高原いんふお」は平成十四年九月から、地域の環境について、情報発信をしてきました。これからは微力ではありますが、一所懸命に地域環境について学び、皆さま方にご提供できま

すよう努力して参りたいと思っております。

本年も何卒よろしくご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

皆さま方の益々のご発展とご健康をお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

今年もよろしくお願いします



業務課



業務課長 坂曾路一

日頃は、皆様方のご理解とご協力により、順調に業務を行わせていただいております。厚くお礼申し上げます。

昨年度から、従来からのし尿汲み取り、浄化槽清掃等の業務と、設備業務が統合されて新しい業務課となりました。

し尿汲み取りや浄化槽清掃を通じて地域の環境を守るとともに、ご家庭での快適な生活環境を提供するため、本年も課員一同頑張りますので、よろしくお願いいたします。

廃棄物課



廃棄物課長補佐
清水直樹



廃棄物課長補佐
野上雄二

日頃は、ゴミの分別収集に、ご協力いただきありがとうございます。

年々、ゴミの種類、分別が増えて大変ですが、きれいな地域づくりのために、ゴミの削減、リサイクルに皆様方とともに一生懸命取り組んでいきたいと思っております。分別がわからない、処分の仕方がわからないなど、どんな小さな事でもお尋ねください。本年もよろしくお願いいたします。

メンテナンス課



メンテナンス課長
勘田佳克

私たちメンテナンス課は、浄化槽点検や下水道終末処理場の維持管理を中心に、水環境に係わる業務を行っております。また、高圧洗浄車による排水管洗浄、ご家庭の換気扇やお風呂清掃などのハウスクリーニング、墓石清掃、貯水槽清掃、店舗内床清掃など、さまざまな清掃に関する業務も行っております。

本年も『お客様に喜んでいただける仕事』を合言葉に、すばやい対応と最高のサービスを目指し、技術の向上に努めてまいります。

分析課



技術部長兼分析課長
辻井伸明

分析課は、飛騨地域の下水や浄化槽、工場排水、貯水槽飲料水、温泉成分、浴槽水などの水質分析を行っています。

水環境を守るためには、その水が基準を満たしているかどうかを測定することが必要です。私たちは、水質分析を通じて地域の水環境に貢献できるよう、業務に邁進して参ります。本年もよろしくお願いいたします。

総務課



総務課長 追分裕志

私たち総務課は、電話応対や営業活動を主に、お客様、取引先の皆さまとお付き合いをさせていただいております。

常にお客様あつての会社であることを念頭に置いて、より良い接遇を心がけていきたいと思っております。

キッチン、お風呂、トイレなどのハウスクリーニングや粗大ゴミの回収など、お困りごとがございましたら、いつでも、お気軽に声を掛けてください。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

絶滅 危惧種 のお話

◆植物編

今回は植物の絶滅危惧種についてのお話です。植物が絶滅する原因を大きく分けると、①開発、②乱獲、③管理放棄、④環境汚染、⑤競合となります。いずれも人が原因で引き起こされたもので、私たちに無関係であるとは言えません。実際に絶滅危惧種に指定された植物を下表で紹介します。

絶滅危惧種	自生場所	絶滅危惧の原因
 サクラソウ	林間の湿性地や原野の草間に生え、ときに群生します。埼玉県さいたま市桜区の「田島ヶ原サクラソウ自生地」のように、国の天然記念物に指定されている貴重な群落もあります。	開発 森林伐採や埋め立てなどの開発をしたために生息地が破壊されたり消滅したりする。
 オキナグサ	日本では、本州、四国、九州に分布し、山地の日当たりのよい草原や河川の堤防などに生育します。アジアでは、朝鮮、中国の暖帯から温帯に分布します。	乱獲 鑑賞や園芸などのためにむやみに乱獲したため。 管理放棄 そこに住む人の生活スタイルがかわり、里山が手入れされなくなったために生き物の住む環境が変わり、生息できなくなる。
 オニバス	本州、四国、九州の湖沼や河川に生息しています。かつて宮城県が日本での北限でしたが絶滅してしまい、現在では新潟県新潟市が北限となっています。氷見市の「十二町湯オニバス発生地」は天然記念物として保護されてきましたが、指定範囲での自生は見られなくなり、現在は再生の取り組みが行われています。	環境汚染 農業や水質汚染（工場排水や生活排水など）のために生物が死んだり弱ったりする。
 イヌノフグリ	東アジアに広く分布し、日本では本州以南に見られる在来種で、かつて路傍や畑のあぜ道などで普通に見られた雑草でした。	競合 他の地域から持ち込まれた外来種にすみかを取り合って負けてしまったり、交雑して純粋な在来種がいなくなる。

ここで、紹介した絶滅危惧種の植物はほんの一部で、毎年4万種の動植物が絶滅したと推測され、現在、8724種が絶滅危惧種に指定されています。これ以上、被害を増やさないためにも、私たち一人一人が生活環境を見直す必要があるのではないのでしょうか。

次回は絶滅危惧種-動物編-です。

しあわせになる条件 その22

新年を迎え、平成24年の幕が開きました。

昨年は、日本中が大きな悲しみに包まれた年でした。皆さまにとって、この一年が、穏やかで幸多いものでありますようお願いしております。

昨年11月、ワンチュク・ブータン国王夫妻が来日されました。東北の被災地で、真剣に祈りを捧げられる姿に、被災された方々はどれほど心癒され、勇気づけられたことでしょう。自ら福島入りされた国王は、相馬市の小学校では、子どもたちにブータン国の象徴である龍の話をして元気づけられました。「龍は一人ひとりの心のなかにいます。その『人格』という龍は、『経験』を食べて成長します。だから私たちは、日増しに強くなるのです。そして、感情をコントロールして生きていくことが大切です。どうか、自分の龍を大きく素晴らしく育てていって欲しい」笑顔でやさしく語る国王の話に、子どもたちは瞳を輝かせて大きくうなずいていました。子どもたちの柔らかな感受性は、国王の願いをしっかりと、それぞれの心のなかに根付かせて、苦難に立ち向かっていくことでしょう。

また、その後の国会での国王の演説は、私たちの心を大きく揺さぶるものでした。「日本は、過去にもそして現代も、アジアのリーダーであり続けま



尾山敦子 キャリアカウンセラー

「このグローバル化した世界において、これまで以上にリーダーにふさわしいのです。世界は常に日本のことを大変な名誉と誇り、そして規律を重んじる国民、歴史に裏打ちされた誇り高き伝統を持つ国民であり、知行合一、兄弟愛や友人との揺るぎない強さと気丈さを併せ持つ国民であると認識してまいりました。」

高齢者の6割が生活に不安を感じ、乳幼児の母親の7割が子どもが煩わしくてイライラしてしまうことがあると答えているという、人間関係が崩れ去りつつある我が国の現状を思うと、国王の最大限の賛辞に恥ずかしさを覚えるのでした。まるで天からためられているかのような、次々と降りかかる国難を前にして、私たちは、それぞれが、何ができるのか、また何をして行かなければならないのかを深く考えなくてはなりません。「迷ったときは、原点に帰れ」と申します。祖先の方々が営々と築き上げてくださった日本人としてのDNAが、必ず行く手を照らしてくれることを信じています。

新しい年にあたり、国民総幸福量(GNH)を掲げるブータンからのしあせになるメッセージをしっかり受け止め、本来の日本人としてのしあわせのあり方を、改めて見つめていきたいものです。

需要予測

川村 和夫先生

名古屋市在住
弁護士 34 年目の 58 歳
趣味 雑多

予測ということは必要であり難しい。まだ来ぬ時が来た時に起きることを見極めることは、誰にとっても困難である。

既に過去のテーマとなってしまうが、不要な道路、不要な空港の存在は、需要予測の誤りが導いたものである。しかし、この誤りは、過失によるものではない。道路や空港を造りたい人々が、過大な需要を故意に予測したのである。

物事は連鎖するので、不要な道路は、高速道路料金行政の混乱を生み、紆余曲折はあったが、元通りの高い料金になっている。不要な空港は、日本航空の倒産を導き、多くの路線の廃止をもたらした。

弁護士になることのできる資格試験は、近時、著しく合格者が増加した。平成の初め頃は年間500人程であったが、今は、その4倍くらいである。それによって、若い弁護士の就職難が言われるようになった。これも故意に過大な需要予測を作り出し、「司法制度改革」を実現した結果である。TPPに似て、米国の圧力のもとに、日本の弁護士の有りように変化をもたらしたのである。勿論、日本国内にもそれで利益のある人達が何グループか存在したので、起こりえたことではある。例えば、法科大学院を作った私立大学のように。問題は、それが多数の国民にとってどういうことか、ということである。弁護士という資格を持っていることに対する信頼が低下することは確実であろう。合格者を4倍にして、質が維持できると考えることは、もともと無理である。実体がそうであれば、信頼も低下する。

物事は短所ばかりということはない。腰の低い、気さくな弁護士が増えることは、良いことである。しかし、その代わりに失われるものの大きさを把握することは、普通の人にとっては困難である。

弁護士は医者と同じく、利を求むることに走れば、大きな害を人々に与える職業である。しかし、害を普通に人が受けるのは、本当に困った時であり、それは、失われたものを認識することもできない状況のときである。



こんにちは！環境分析室です！ No.15

言葉に映る水の姿

私たちの生活と水は切っても切り離せない関係があります。日常生活の中で普通に使われている漢字やことわざ・慣用句を見てもそれを感じることができます。

漢字の中で水は部首、水部を作ります。偏に置かれた場合は「氵」の形になり、「さんずい」と呼ばれ、下部に置かれる場合は「氷」となり、「したみず」等と呼ばれます。偏の中で最も多いのは「さんずい」で、常用漢字だけでも100字以上あります。



ことわざや慣用句には、

背水の陣

〔絶体絶命の状況で全力を尽くすこと〕

寝耳に水

〔不意の出来事や知らせに驚くこと〕

覆水盆に返らず

〔元通りにならないこと、取り返しがつかないこと〕

水掛け論

〔自説にこだわって、両者がいつまでも争うこと〕

水が合わない

〔その土地(環境)になじめないこと〕

水と油

〔性質が合わず調和しないこと〕

焼け石に水

〔努力や助けが少なくて役に立たないこと〕

水に流す

〔過去のいざこざなどを全てなかったことにすること〕

など、数え切れないほど日本独特の表現がありますし、英語でもこんな言い回しがあります。

A lot of water has flowed under the bridge since then.

〔(直訳)そのとき以来多くの水が橋の下を流れた。→あれから随分月日が経ったものだ。〕

改めて意識してみると、何気なく使っている言葉の中に、こんなにもたくさんの“水”が使われていることが分かります。

そして直接水の姿が見えなくても水に関する意味を含んだ言葉もたくさんあります。例えば、禊(みそぎ)という言葉は「身そそぎ」が語源で、海や川の水で身を清め、罪や穢れを洗い流す意味で使います。寺社で参拝前に手を清めることや、流し雛などの行事も禊が略式化されたもので、塩でのお清めも海水で行った禊の名残りと言われていました。



また、祓(はらえ・はらい)という言葉は罪穢れや厄災を取り除く儀式のことで、禊は水を使った祓と言えます。そのため禊のことを禊祓(みそぎはらえ)とも言います。

言葉からも私たちの生活と水とが、いかに深く関わっているかを感じることができます。

長良川環境 14

長良川河口堰問題 に火の手



粕谷 志郎 (かすやしろう)

岐阜大学地域科学部教授 医学博士

大村秀章愛知県知事の誕生によって長良川河口堰の検証が始まりました。専門委員会も11回におよび、「5年以上の開門調査」を提案した報告書を採択して11月7日に終了しました。しかし、水資源公団や国土交通省がこれに噛みつき猛反対を表明しています。そこで、愛知県の専門委員と国交省の委員での討論の場も提案されました。私も、まだ解任ではなく、第2幕に備えなければならないかもしれません。

今回、画期的であったのは、行政機関が、史上初めて、長良川河口堰の検証に乗り出したことです。

河口堰運用継続を前提にした「検証」はいくらもありましたが、当然ながら、環境への影響を示すデータを多々示しながらも、「環境への影響は軽微であった。」と、判で押したような結論が導かれてきました。長良川の環境が、行政の思惑をぬきに、きちんと取り上げられて議論されたのも委員会の最大の特徴でした。利水に関する検証も、中立になされたのは初めてです。今まで行政でなされた議論は、長良川河口堰ありき、徳山ダムありきで、これらが無くても水需要がまかなえることを、行政の設置した委員会で結論づけました。なんだか、天と地がひっくり返った気分です。

こうした報告書は官僚が書いて、委員が承認するのが今までのスタイル。今回は、委員自らが議論し、委員自らが作成しました。これも画期的なことらしいです。完全な公開というのも珍しいことです。毎回、会場いっぱいの傍聴者が来られました。420を超えるパブリックコメントもいただきました。私が分担した部分では、「開門調査の必要性が明確でない。」という手厳しいコメントをいただきました。これは、裏返すと後押しでもありました。その結果、「失われた汽水域・感潮域の生態系を回復し、豊かな河川環境をとりもどすことができる。」とする、最も大切な観点を加え、「私達は、生物多様性から受ける恩恵を享受する権利を有している。いかなる利便性もこれを損なってはならないと考える。」を追加することができました。この報告書の内容に沿った前進があるといいですね。年頭にあって、そんなすばらしい年になるよう祈念します。





このコーナーでは、当社の社員が、
環境衛生の仕事の現場で見たこと、感じたこと、あるいは仕事に関係のない
趣味の世界を、交代で思いつくままに書き綴っていきます。



「私とオートバイ」

●昭和63年入社 メンテナンス課所属 **川端 秀喜**(かわばた ひでき)

私とオートバイとの出会いは、16歳になって早々に運転免許を取った
時で、それからかれこれ40年以上になります。

最初に原付の免許を取り、練習の結果、自動二輪は一発で合格し、それ
はもう天にも昇る気分だったことを今でも覚えています。当時はヘルメッ
トがまだ必要ではなく、今考えると恐ろしいですが、学生服に学生帽で走りまわっていました。

それから色々なバイクに乗ってきましたが、前キックで一步間違えると急所を強打する、CB72という個
性的なバイクが特に印象に残っています。それは、道路舗装のバイトでやっと手に入れたものでした。当
時発売となった750cc(ナナハン)は憧れの存在でした。

明るい農村用のスクーターを最後にバイク人生は一時休止となりましたが、還暦を境にビッグバイク
で優雅に走るのが私の夢です。

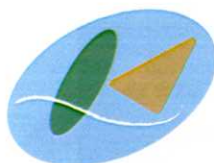
ギフト用ハウスクリーニング券発行いたしました

大切な方にお掃除をプレゼントしませんか。



・新年会、同級会等のイベントの景品に！・ご両親、奥様へのプレゼントとしていかがですか？

※ご不明な点がございましたらお問い合わせください。



株式会社 神岡衛生社

〒506-1147 飛騨市神岡町東雲375番地

TEL0578-82-0337 FAX0578-82-5846 URL <http://www.k-eisei.co.jp/>

ホームページからもお問い合わせ、ご注文など
承っております。なかなか電話する時間がない
方も、そうでない方もお気軽にどうぞ。

業務 内容

●一般廃棄物収集運搬／し尿、ゴミ(一般家庭・事業系) ●産業廃棄物収集・運搬 ●浄化槽清掃
●浄化槽保守点検 ●浄化槽工事 ●上下水道設備工事 ●下水道施設維持管理(終末処理場・管路)
●衛生設備維持管理 ●ビルメンテナンス／床清掃、排水管清掃、貯水槽清掃 ●リースキン代理店
●水質分析／環境分析、排水分析、建築物飲料水水質検査 ●環境衛生関連商品販売 ●墓石清掃
その他、環境衛生に関する全般のご相談に応じます。